



合同プログラム参加研修員と来日した省庁担当者(東広島のJICA中国にて)

アフガニスタン国 未来への架け橋・ 中核人材育成プロジェクト (PEACE) ニュースレター



第3号 2018年1月発行

発行元:

一般財団法人日本国際協力センター(JICE)

本ニュースレターは年に2回発行し、PEACEプロジェクトに関する動きや今後の予定等をまとめてご報告します。

◆59名が卒業・帰国

2017年9月、59名のPEACE研修員が修士または博士の学位を取得して卒業しました。その中の一人、立命館大学理工学研究科を卒業した麻薬対策省のBawar Mohammad Jamalさんは、同大学卒業式で修了生の代表として答辞を読みました。答辞では、研究をやり遂げた喜びと、来日前とは比べようもないほど知力、コミュニケーション能力が伸びたことを語りました。そして、ここで立ち止まらずに学んだことを実行に移していくべき時だ、と修了生を鼓舞しました。

卒業式を終え帰国したBawarさんは、「アフガニスタンでは、持続可能な社会を導くためにアフガニスタン人の専門家が今最も必要とされています。私は若きプロフェッショナルの一人としてこのプロセスに貢献したいと思っています。かけがえのない日本での学びの経験は、母国のために行動する上で必要な能力と勇気を与えてくれました。」と語りました。



答辞を述べるBawarさん

◆7バッチ修士課程の研修員40名が来日

2017年9月から10月にかけて、7バッチ修士課程の研修員40名が来日しました。7バッチは女性の応募をさらに奨励した結果、7名が合格し、女性研修員の割合がこれまでで最も高い17.1%となりました。

来日前には現地でアカデミックライティングや数学の補習、及び来日前オリエンテーションが行われ、日本での研究生生活に向けて準備を整えた後、来日しました。農学、工学、社会科学分野に加え、プロジェクトフェーズ2から新たに対象分野となった教育、保健分野を現在全国の21大学28研究科で学んでいます。



出発前に行われた現地壮行会

◆合同プログラムの開催

2017年9月8日から2017年9月16日にかけて、JICA中国を主会場としてPEACEプロジェクト合同プログラムを実施しました。このプログラムは、日本各地の大学院で学ぶ研修員が広島で一堂に会し、PEACE研修員間の連帯感を醸成するとともに、各々の専門分野を超えて母国の復興に貢献するための知識や考え方を習得することを目的として毎年行われています。

6バッチを中心とする65名の研修員は2つのグループに分かれ、広島平和記念公園での平和学習の他、講義・ワークショップ等に参加し、普段の研究内容からは一旦離れ、行政官・大学教員としての役割や資質、アフガニスタンの復興について深く考える5日間を過ごしました。

※詳しい内容は、JICAウェブサイト内「[プロジェクトニュース](#)」に掲載されています。



広島平和記念公園で折鶴に込められた平和への願いを知る

◆第4回女性リーダーシップ研修の開催

2017年12月10日から13日にかけて、第4回女性リーダーシップ研修が開催されました。2017年秋に来日した7バッチ女性研修員5名が参加し、女性のエンパワメント、ドメスティックバイオレンスについてケーススタディから学び、自国の状況について発表を行ったほか、神奈川県鎌倉市の特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会の活動を見学しました。発表では、統計資料を基に自ら分析を行った結果、多くの研修員が「教育が女性のエンパワメントにつながる」と指摘しました。また、山崎・谷戸の会では、鎌倉中央公園の貴重な里山の景観を守るため、行政や市民を巻き込みながら地域で活躍する女性リーダーの活動を学びました。地域の240世帯が自主的に活動に参加していることを知った研修員は非常に驚き、「皆さんがボランティアで活動しているのですか？」と質問する場面も見られました。研修中は6バッチ女性研修員との交流会も開かれ、全国に散らばる女性研修員間の繋がりを強くした研修となりました。



女性のエンパワメントについて学ぶ

◆PEACE関連イベント

・未来への架け橋 中部の集い

2017年11月25日、「PEACE未来への架け橋 中部の集い」が開催されました。このイベントは、「一般の方を対象に日本のアフガニスタン支援について紹介する機会を設けたい」という名古屋大学西川教授の発案のもと、日本によるアフガニスタン支援、PEACEプロジェクトの概要説明や中部地方の研修員の研究紹介、帰国研修員によるパネルディスカッションが行われました。PEACE第2バッチ研修員として名古屋大学大学院を修了した後、現在、在日本アフガニスタン大使館で二等書記官として勤務するAsif Agahさんは、パネルディスカッションで「PEACEプロジェクトのフェーズ2終了時には、日本の大学院で修学した研修員数が合計750名になる見込みです。その750名は異なる省庁に属していますが、省庁の垣根を越えて強いネットワークを築いていきたいです。この大きなネットワークは、いずれは国の大きな発展に繋がります。それを通じ、垣根のない、風通しの良い社会を目指していきたいです。」と語りました。



パネルディスカッションに登壇したAgah氏(左)

・宮崎大学とヘラート大学が大学間交流協定を締結

2017年11月27日、宮崎大学はアフガニスタン北西部にあるヘラート大学と大学間交流協定を締結しました。同日に行われた記念シンポジウムでは、ヘラート大学から総長や教員が参加し、両大学の紹介の他、PEACE研修員による発表も行われました。宮崎大学の池ノ上学長はあいさつの中で「この協定は、PEACEプロジェクトがきっかけとなったものです」と述べ、ヘラート大学のAbdullah Faiz学長は「この協定は、二大学間の共同研究を後押しするものです」と語りました。PEACEプロジェクトをきっかけとした大学間協定としては、2017年5月にも琉球大学工学部とカブール大学工学部の間で部局間学術交流協定が締結されており、PEACEプロジェクトに関わる新たな動きとして注目を浴びています。



記念シンポジウムでのPEACE研修員による発表(Mohammad Hakim Niazmandさん)

◆PEACEプロジェクト今後の予定(～2018年6月)

<現地>

- 3月 第7バッチ博士課程研修員の来日前オリエンテーション
- 4月 第三国でのカウンターパート研修
現地帰国報告会

<日本>

- ～3月 短期フォローアップ研修
- 1月 課題別研修(灌漑分野)
- 1月～3月 学業サポートセミナー
- 3月 3月卒業研修員の評価会および帰国
- 4月 第7バッチ博士課程研修員の来日、オリエンテーション
JICEによる定期モニタリング

◆第8バッチ修士(2018年9月来日)選考スケジュール

- 1月 応募書類提出
- 2～3月 JICEによる応募書類チェック
予備教育および英語・数学試験
JICAによる面接(予定)
- 4月 受入大学による書類審査
- 5～6月 受入大学によるWeb/TV面接
- 6月 運営委員会による最終合格者の承認
- 7～8月 予備教育(英語・数学)
- 8月 来日前オリエンテーション、壮行会
- 9月 来日後プログラムオリエンテーション

◇PEACEに関するメディア掲載情報(クリックでリンクが開きます)◇

JICAウェブサイト

- 2017/9/25 [プロジェクト初の女性博士号取得者として、大学で教鞭を取りつつ女性のリーダーシップを育む\(お茶の水女子大学 ナジファ ファケリヤーさん\)](#)
- 2017/10/3 [インターン生によるアフガニスタンからの留学生インタビュー](#)
- 2017/12/7 [2017年度PEACE合同プログラム-母国の復興への想いを新たに](#)
- 2017/12/27 [帰国長期研修員が母校で研究活動](#)

その他メディア

- 2017/8/1 [アフガン大使館ニュースレターThe Heart of Asia herald 第1巻・第1号](#)
- 2017/10/1 [アフガン大使館ニュースレターThe Heart of Asia herald 第1巻・第2号](#)